

第6期横浜市子ども・子育て会議 第9回保育・教育部会 第34期横浜市児童福祉審議会 第10回保育部会 合同部会 公開議事会議録		
日 時	令和6年4月30日(火) 19時30分～21時12分	
開催場所	市役所18階 みなと6・7会議室	
出席者	石井部会長、山瀬副部会長、大澤委員、大庭委員、尾木委員、清水委員、天明委員、斉田委員、森委員	
欠席者	倉根委員	
開催形態	公開(一部非公開)	
議 題	<p>報告<公開案件></p> <p>【子ども・子育て会議】</p> <p>(1)「横浜市子ども・子育て支援事業計画策定に向けた利用ニーズ把握のための調査」の結果について</p> <p>議事<非公開案件></p> <p>【児童福祉審議会】</p> <p>(2) 保育所の認可及び内装整備費補助金交付先法人の審査について</p>	
議 事	(1)「横浜市子ども・子育て支援事業計画策定に向けた利用ニーズ把握のための調査」の結果について	
	<p>石井部会長</p> <p>事務局</p> <p>石井部会長</p> <p>天明委員</p> <p>石井部会長</p> <p>尾木委員</p>	<p>議事(1)「横浜市子ども・子育て支援事業計画策定に向けた利用ニーズ把握のための調査」の結果について、事務局から説明をお願いします。</p> <p>資料に沿って説明。</p> <p>それでは、ただいまの事務局の説明について質問や意見がございましたらお願いいたします。コロナを前後に挟んでいるので、結構色々なところで違いがあるなという感じがしますが、皆さん、いかがでしょうか。</p> <p>お疲れさまです。赤裸々な声が聞けて何か頑張れるという感じがしています。</p> <p>回収率が驚異的ですね。一般の調査よりもはるかに超えています。実は新宿区の同じ調査が軒並み40%前半とか、年代によっては30%もあったので、それと比べるとかなりすごい回収率かなと思います。</p> <p>1つ気になっているのですが、6ページから7ページに、今、年間を通じて「定期的に」利用している教育・保育事業と利用したい教育・保育事業と二つ記載があります。この中で居宅訪問型保育が、僅かながらですが、現在利用している、利用したいと選ばれているのですが、これは本当に横浜市の居宅訪問型保育事業を想定して答えているのか、あるいは、いわゆるベビーシッターと間違えて答えてしまってい</p>

事務局
大庭委員

るのか、そこをちょっと確認していただくほうがいいかなと思います。
この「利用している」と回答した人も実際に本当に居宅訪問型保育事業を利用しているのかということがちょっと疑わしい。私も調査すると、そういう回答の間違いがよくありますね。

あと、(イ)「平日の日中に定期的に利用したい教育・保育事業」で、年齢別に見ると3歳、4歳、5歳で居宅訪問型保育事業に回答している人がいますが、横浜市の居宅訪問型保育事業は2歳までかと思imasので、やっぱりそうではない人が回答しているので、そこをちょっと精査して消すなり除外するなりしたほうがいいかなと思imasました。

引き続き整理をしまいます。

ありがとうございました。膨大な量の情報になりますので、簡単には感想をお伝えできないのですが、13ページにある子育てをしていて感じている困り事について、子どものネットやゲームとの付き合い方というのがこの5年で大変大きい比率で出てきていて、これからもっともっとパーセンテージが上がっていくのではないかと思imasます。御承知のとおり、日本の場合はターゲティングアドという、なにかを調べるとそこに目がけて集中して宣伝するものがありますよね。そこで子どもが漫画やゲームの餌食になっていくということがあるので、今から法的な対処をしていかないとちょっと難しいのではないのでしょうか。スマホを持つ年齢が下がってきていて、今、小学生でも持っている方は大変多いので、そこは何かしらやらないとまずいのではないかなと思imasます。

それから、小学生調査の「あったらいいなと思う場所」ですけれども、建物の外よりも中のほうが多いところですね。この異常気象だからでしょうか。私も横浜市に園があり、そこは移転を前提でお借りしたのですが、保護者にアンケートで、新しいところだと屋内で涼しく遊べると言ったところ、全員が早く移転したほうがいいと賛成しています。そのぐらい切実な気候ですし、認可の基準に園庭の設置がありますが、ピロティは園庭に含まれていないなど、そういったところもだんだん矛盾してきています。やはりホールがある園が一番子どもたちの遊びに活用できるということもありますし、子ども自身も室内のほうがいいと言っているわけですから、この辺も制度の変更が必要になってくるのではないかなと思imasます。

あとは、「横浜市がどのようなまちになってほしいと思うか」というところですが、この調査について聞いたときに、これは小学生には難しいのではないかなと思imasましたが、やっぱりここは無回答が多く、それが子どもらしいと解釈しております。

調査結果が非常に参考になりますので、またこれからよく読んで、

	石井部会長	<p>何かありましたらお伝えさせていただければと思います。ありがとうございました。</p> <p>ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。</p> <p>子どもの「発達や障害に関する医師の診断」のところで、すごく知的障害が増えています、これは何か要因があるのでしょうか。発達障害の診断が増えているというのは何となく理解できるのですが、割と軽度の子も把握されるようになったのか、この理由について、もし分かったら教えていただきたいです。</p> <p>あとは、「子育てについて不安を感じたり自信がもてなくなること」のところで、妊娠中と出産直後の不安、負担感が軒並み高いというのは、ここに何か手当てをしたほうが良いという理解なのか、今の段階のお考えを教えてください。</p>
	事務局	<p>障害等の診断に関して知的障害が増えている部分については、分析中ですので、また改めて御報告をしたいと思います。</p> <p>子育ての不安感について、妊娠中あるいは出産後、半年くらいの間、特に出産後、半年くらいの間で「よくあった」の値が高く出ることは長年変わっていないかと思います。地域の人とつながる経験や、何かを頼ってもいい経験はとても大事になってくるのかなと認識していますので、施策でどのように対応するのかは今後考えてまいりたいと思います。</p>
	石井部会長	<p>子育て支援拠点を増やせばいいのかと考えて、「どのような相談先があれば相談しやすいか」を見ると、子育て支援拠点が5年前と比較してあまり求められなくなっている、それはやっぱりコロナの影響かなと思うなど、色々考えさせられるデータだと思います。</p>
	清水委員	<p>調査していただき、ありがとうございます。初めて調査結果を拝見することができて、とても勉強になるなと思いましたので、幼稚園協会でも皆さんに伝えたいと思います。</p> <p>先ほど大庭委員からもネットに関するお話しありましたが、「どのような相談先があれば相談しやすいか」を見ると、だれかに向き合って相談する保護者の割合がとても減っていると感じます。私も、ちょっとした知りたいことはつい携帯で調べてしまいますけれども、本当にどう解決していったらいいか、難しいなというときとの違いといえますか、日常のこと、子育てで困っていること、家族内で困っていることで違いがあるのかなというふうに感じました。</p> <p>先ほど、子どもたちが屋内を求めているという話がありましたが、屋内の建物であっても、例えばプランターなどでも自然環境はつくれるので、そういう四季折々の植物を子どもたちが実際に体験するというのも大事かなと思います。</p>

	<p>天明委員</p> <p>石井部会長</p> <p>天明委員</p> <p>斉田委員</p> <p>事務局</p>	<p>私の園は都市部ではないので、園庭で走り回って、時には転んでけがをする子もいるのですが、あっ、これはやめておこうとかというのを自分で考える、そんな経験を特に乳幼児期にさせてあげたいというのが私の考えです。</p> <p>ただ、都市部では園庭がどうしても作れないところもあると思うので、そこは保育ニーズとのバランスだと思いますが、子どもの立場から考えると、最小限であってほしいなと感じました。</p> <p>設問を絞って、誠実に皆さんが答えてくれてよかったと思います。この結果を共有するときに、市の計画に落とし込むことを目的にしていると思いますが、今聞いた印象だと、この結果を共有すべき人はもっとほかにもいるかなと感じました。子育ては正解がないので、何か教わるというわけではない関係を地域でつくっていかないといけないです。町内の方や、顔見知り、サークルの仲間、同じ趣味の仲間、信じるものが同じ仲間など、何かしらのつながりをつくっていくというのを、事業だけではない形で共有できるといいかなと思いました。とても良い意見がたくさん出ていたと思うので、そんな側面も気にしていただけたらと思います。</p> <p>「子育てをされていて地域社会から見守られている」の回答でも、あまり地域で見守られている気がしないとありました。</p> <p>そうです。本当にサークルなどのつながりとかも難しくなっているので、地域もとても課題を感じています。町内会の担い手もいなくなってしまうなど、本当に保護者側も助けてもらっている感じがしないし、地域も助けている感じはないと思います。でも、調査結果で足りないということが分かれば、何ができるかなと考えられると思いますし、保護者が正解がないつながりを色々なところで見ること、不安に思わなくてもよいのかもというような自信につながったら良いと思います。</p> <p>9ページの「母親の育児休業」の取得日数ですけれども、1年程度が37.4%、2年が31.7%とありますが、これは、本当は1年で復帰したかったけれども、保育園に入れなかったから2年になってしまったなど、その背景や状況についてのクロス分析まではデータがないから分からないということでしょうか。</p> <p>本日御用意した資料には入れておりませんが、ニーズ調査報告資料の全体では、父親、母親の職場復帰の時期と希望がずれている場合は、どうしてそういうずれがあったのか、保育所の入所に合わせたのか、仕事の都合や、家庭の問題などの要因に聞いているところがあります。</p> <p>例えば、母親が職場復帰したいと思っていた時期よりも早く職場復帰した理由では、希望の保育所に入所するため72.9%と一番多くな</p>
--	---	---

	<p>齊田委員</p> <p>事務局</p> <p>石井部会長</p>	<p>っています。また、希望よりも遅く職場復帰した方の理由については、希望する保育所に入れなかったから育児休業の復帰を遅くしたというものもありました。報告資料の全体ではそのあたりも御覧いただけるようになっております。保護者のそういった気持ちが満たされることも含めて今後の計画には生かしてまいりたいと思っております。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>あと、これは私自身の課題でもありますけれど、アンケートの回答者の属性が、母親が84.1%、父親が15.3%なので、もう少し父親の回答率を高めていくような取組も課題としてあるかなと思いました。</p> <p>10年前は父親が11%ぐらいでした。今回は15%で少しずつ増えてきてはいるのですが、御案内の仕方等をより一層工夫できればと思っております。</p> <p>ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。</p> <p>では、続報がクロスで出てくるということなので、また楽しみにしつつ、検討していく材料としてまた我々も勉強していきたいと思えます。どうもありがとうございました。</p> <p>ここで公開案件が終了となりますので、一旦事務局にお戻しいたします。</p>
--	-------------------------------------	--